

退職にあたって

新たな環境で、新たな挑戦へ

一般教科 井上 次夫



これまで私は2つの高校で19年間、2つの高専で14年間の合計33年間、国語教育と日本語研究に携わってきました。また、その間、文化教育専門家として中国の大学で2年間の日本語教育にも携わりました。それに伴い、出身の兵庫県を皮切りに日本では奈良県、栃木県、中国ではハルビン市での生活を体験しています。しかし、いずれにおいても現状

に満足することなく、さらなる次元を求めてひたすら走り続けてきたように思います。そして、この度、次代の有為な教員を育成する機会を得て、高知県立大学に異動することになりました。

最後に、本校でお世話になった教職員の皆さま、共に成長できた学生諸君に厚く御礼申し上げます。私の挑戦はこれからもまだ続きます。

奈良高専に感謝、そして学生の皆さんへ

電気工学科 中村 善一



1970年4月に奈良高専電気工学科に入学し、卒業後10ヶ月民間企業で勤務した後、縁あって母校の助手として採用され、以来39年2ヶ月が経ちました。実に44年2ヶ月を奈良高専で過ごしたことになります。この間、多くの教職員の皆様にご指導ご援助をいただきましたこと、また、よき学生に恵まれましたことに深く感謝いたしております。ありがとう

ございました。

退職にあたって、学生の皆さんへメッセージを送ります。「親を泣かすな」「相談できるようになることが大人になるということ」を頭の片隅に入れて、在学中に色々なこと（特に学生時代にしかできないこと）にチャレンジしてください。そして、将来自分がやりたいことを見つける努力をしてください。皆さんの活躍を期待しています。

カウンセラーだより

「自分とは何か」

臨床心理士 長田 夏子

みなさんは「自分とは何者なんだろう」と考えたり悩んだりしたことはありませんか。いくつになっても悩みはあるものですが、青年期にはこれまでと違った特徴的な悩みが出てきます。小学生や中学生の時もテストの成績が下がると落ち込んだことがあったでしょうし、友達とうまくいかないや悩んだりしたかと思います。けれど、青年期になると「私とはなんなのだろう」とか「どうして自分はここに存在するのだろう」といった「自分」に関わるような悩みについても考えるようになってきます。この「私はほかの誰でもない私であるという感覚」をアイデンティティと言います。

悩みの程度は人によってさまざまです。友人に話をして解消される人もいれば、気になって仕方がなくなるとい

う人もいるかもしれません。アイデンティティを形成していく心のプロセスは「本当の自分」がそれぞれ違うように一人ひとり異なってくるものなのです。

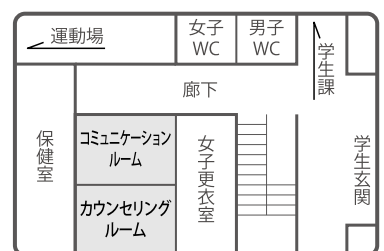
プロセスの中では、今まで「こんな自分になりたい」と思っていたけれど思う通りにいかないなどと挫折感を感じることがあるかもしれません。自分自身を見つめ直し、自分で自分を作っていくのはしんどい作業でもあります。そんなときは、一人で抱え込まずに、信用できる先生に相談したり、学生相談室の先生、カウンセラーのもとを訪れたりすることをお勧めします。辛さがやわらいんだり、少し違う考え方が見えてくるかもしれません。本当の自分に出会うためにも、気軽に相談室を訪れてみてくださいね。



本校では、各学科及び特別相談員の先生方の相談の他に、心理カウンセラー（臨床心理士）によるカウンセリングを行っています（予約制）。一人で悩みを抱え込んでしまわずに、なんでも相談を持ちかけてください。みなさんの一人一人が、より豊かで充実した学生生活を送ることができるようお手伝いをしたいと考えています。

利用方法	カウンセリングルーム・保健室で予約できます。（予約制ですが、可能な限りその場で相談に応じます。）
開室時間	4月から月・火曜日15:00～18:00に、心理カウンセラー（臨床心理士）が対応します。
場所	本館1階 保健室横 カウンセリングルーム
カウンセリングの方法	カウンセリングは原則として1対1ですが、保護者や友人と一緒に受けることもできます。

カウンセリングルームは、あなたが悩みを打ち明けたい場所でありたいと来室をお待ちしています。



本館1階

